

水高生の思いを受けて 水戸一中生頑張れ

平成 22 年 6 月 日 学校長 本田 和夫

水戸市立第一中学校は、旧制水戸高等学校（水高）の広大な跡地の 東南に
当たる、かつての「野球部グラウンド部分」に建っています。

暁鐘 水戸一中生に与うる書 旧制水戸高等学校卒業生から

という小冊子が校長室に残されていました。第 13 代校長の 加藤 昭 先生は、既に故人となられましたが、この小冊子をつくることに大変努力されました。それは正に、水高と水戸一中との地の縁（えん）から心の縁（えん）を創り出そうとする試みでした。それから 20 有余年の年月が流れております。

その冊子の中から、水高の第 14 回生の島田秀夫様、その当時 三菱重工業の顧問であられた方の「水戸一中生の諸君に」という文の一部分を紹介しましょう。このように、水高は、島田様はじめ各界のリーダーだった人を沢山輩出しています。

当時の水戸の街も、水戸の駅から水高へ向かうと向井町広小路辺りまでが市街地で、その先は街の灯りも途絶え勝ちで 家並みもまばらになってきて、水高の近辺は畠や桑畠の中に住家が点々と散在する程度でした。夜道を寒風に吹かれながら、朴歯をカランコロンいわせながら寮へ帰ってくると 大きな講堂が目の前にはだかり、その先に広いグラウンドを通して七つの寮の灯りが見えて

きます。(現在の中学校の正門の辺りが水高のグランドへの裏門にあたると思
います) 或る者は明日の為の勉強か読書に, 或る者は誰かの部屋に集まって火鉢
を囲んで駄弁ったり, 校門の前にあった名雪そばや支那そばを取り寄せ, 夜食
をとりながら口角泡を飛ばしていたと思います。

自治全寮制のもとで知徳体の練磨をなし, 社会に出てからは, 各界にわた
ってリーダーとして活躍する人材を輩出した水戸高等学校。その水高と地の
縁で結ばれた水戸一中。是非とも, 先輩たちに思いを馳せ, 理想に燃え, 学
問に打ち込む生徒であってほしいと願わずにはおられません。

校歌の2番に「年若きわれらの伴は 明日の代の祖国をになふ」という一節
がありますが, 現在水戸一中生である389名の皆さん一人一人が, この校歌
の教えを受け, また, 旧制水高生の思いを受けて, 明日の代の祖国日本を立派
に担える生徒たちになることを, 教職員一同心より祈念しています。